

一般社団法人 大学英語教育学会 (JACET)

第 34 回 (2018 年度) 中部支部大会プログラム

The JACET 34th (2018) Chubu Chapter Annual Convention

大会テーマ

大学英語入試で何を測るべきか

What Should University English Entrance Exams Measure?



2018 年 6 月 16 日 (土)

開会時間：午前 10 時

愛知大学 名古屋校舎

〒453-8777 名古屋市中村区平池町 4-60-6

一般社団法人 大学英語教育学会 (JACET)

第 34 回 (2018 年度) 中部支部大会

大学英語入試で何を測るべきか

What Should University Entrance Exams Measure?

一般社団法人大学英語教育学会 (JACET) 第 34 回 (2018 年) 中部支部大会

- 日 時 : 2018 年 6 月 16 日 (土) 10 : 00 - 17 : 15
- 会 場 : 愛知大学 (名古屋校舎)
〒453-8777 名古屋市中村区平池町 4-60-6 電話 : 052-564-6111 (代)
- 受 付 : 9 : 30 ~ 講義棟 8 階 ホール
- 大会本部 : L 801 (講義棟 8 階)
- 来賓者控室 : L 805 (講義棟 8 階)
- 会員休憩所 : L 802 (講義棟 8 階)

- プログラム
- 10 : 00 - 10 : 15 開会行事 L 804 (講義棟 8 階)
支部長挨拶 村田泰美 (名城大学)
- 10 : 20 - 12 : 00 ワークショップ L 804 (講義棟 8 階)
実践報告 L 803・L 804 (講義棟 8 階)
研究発表 L 803・L 804 (講義棟 8 階)

- 12 : 00 - 13 : 10 昼食休憩
- 12 : 20 - 12 : 50 中部支部役員会 L 801 (講義棟 8 階)

- 13 : 10 - 13 : 30 支部総会 L 804 (講義棟 8 階)
- 13 : 30 - 15 : 00 特別講演 同上
- 15 : 20 - 17 : 10 シンポジウム 同上
- 17 : 10 - 17 : 15 閉会の辞 佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

- 17 : 30 - 19 : 30 懇親会 カフェ・クロスロード
(JICA 中部 なごや地球ひろば 1 階)

- 10 : 00 - 17 : 00 出版社展示 (講義棟 8 階)

後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

ワークショップ **10:20-10:50**

L804

Practical insights and approaches to pronunciation instruction (p. 7)

リア・ギルナー (愛知大学)

実践報告

10:55-11:25

L803

司会 藤原康弘 (名城大学)

思考力と英語ライティング力を育成するサマリーライティング活動：英語専攻学科と放送大学での事例に基づき (p. 6)

佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

L804

司会 村田泰美 (名城大学)

自律的学修を促すリーディング学習活動の検討 (p. 7)

今井倫子 (愛知大学)

研究発表

11:30-12:00

L803

司会 今井隆夫 (愛知教育大学 (非))

学生たちが期待する英語の授業—新入生に対する調査結果から— (p. 6)

高橋妙子 (名古屋市立大学 (非))

石田知美 (名古屋大学)

内田政一 (桜花学園大学)

鹿野緑 (南山大学)

宮田学 (名古屋市立大学)

L804

司会 三上仁志 (中部大学)

地域と連携する英文多読活動—学生の動機づけの観点から— (p. 7)

後藤隆昭 (静岡県立大学)

支部総会

13:10-13:30 L804

特別講演

13:30-15:00 L804

司会 村田泰美 (名城大学)

「大学入試と英語民間試験：課題が生み出すもの」(p. 8)

鳥飼玖美子 (立教大学)

発表要旨

L803

思考力と英語ライティング力を育成するサマリーライティング活動：英語専攻学科と放送大学での事例に基づき (10:55-11:25)

佐藤雄大(名古屋外国語大学)

現在大学に入学してくる学生はその中学・高校時代「自ら考える」ことの訓練を徐々に受けている世代だと言える。このように主体的に考える力を大学に入っても引き続き伸ばしていくことは英語教育、特に産出能力を育成するライティング教育においても強く求められる。その一つの育成法としてサマリーライティングがある。一定の長さの英文を要約するには正確な内容把握と英語表現力が求められ、思考力と英語ライティング力双方を伸ばす指導法と考えられている。報告する実践は 150 words 程度の英語時事ニュースを与え、それを 50 words 程度に要約するサマリーライティング活動であり、この実践を勤務校の英語専攻学科と多様な年齢層が受講する放送大学で実践し、その具体的な方法と結果（受講生の英文の変化）を中心に報告したい。

学生たちが期待する英語の授業—新入生に対する調査結果から— (11:30-12:00)

高橋妙子 (名古屋市立大学 (非))

石田知美 (名古屋大学)

内田政一 (桜花学園大学)

鹿野緑 (南山大学)

宮田学 (名古屋市立大学)

授業デザイン研究会では、大学に入学したばかりの新1年生 577 名を対象にしたアンケート調査を 2017 年 4 月に実施した。「学生たちは、高校卒業までに体験してきた英語の授業についてどのような感想を持っているか」「大学の英語の授業に何を期待しているか」を明らかにしようと、5つの質問に答えてもらった。本発表では、「大学における英語の授業に対して望むこと、また、やってみたいことは何ですか。なるべく、具体的に書いてください」に対する自由記述を取り上げる。

研究会では回答をすべてワープロ入力し、それを記述内容に従って分類する作業に取り組んだ。その結果、22の授業タイプに整理することができた。この授業タイプをさらに5種類に類型化した。コミュニケーションやインタラクションを中心とした授業形態に総回答数の5割以上が集中していた。この調査では、現在の英語力について5段階で自己評価してもらったので、その評価点をもとに英語が得意なグループと不得意なグループに分け、その違いも考察した。こうした結果を報告するとともに、大学における英語教育の在り方について、参会者と一緒に考えてみたい。

L804

Practical insights and approaches to pronunciation instruction (10:20-10:50)

Leah Gilner (Aichi University)

This workshop will describe a practical framework that facilitates the development of communication skills. Informed by the fields of applied phonology, communication theory, and educational psychology, the framework identifies fundamental components that contribute to strategic communicative competence. These components provide teacher and student with a shared vocabulary with which to deconstruct, understand, and implement specific aspects of communicative competence. In this manner, students are given tools they can use to assess their own performance, progress, and effectiveness. They are also given the knowledge with which to constructively analyze the speech of models as well as that of classmates. In this workshop, each of these components will be described, their impact on communication will be discussed, and concrete classroom implementations will be offered.

自律的学修を促すリーディング学習活動の検討 (10:55-11:25)

今井倫子 (愛知大学)

日本の大学では、語学を専門としない学部学科に在籍する学生も、共通の必修科目として英語を履修している。そこで、担当する授業の到達目標を単なる英語力向上にとどまらせることなく、学習力、人間力をも身につけて、彼ら彼女らが胸を張って社会に羽ばたいていけるよう、教養教育という日々の学びの中で、自律的学習を促し養成することをねらいとした。その目的を果たすために、より効果的な学習方略を追究し、学習活動に工夫を凝らし修正と改善を施して実践し、学生の自己実現へと導いていく。

本発表では「Reading」科目に特化して振り返り、ワークシート、ペアやグループワーク、レポート課題といった一部の学習活動を紹介し、どのように授業に取り入れ、働きかけができたか、そしてその過程で学生ひとりひとりにどのような変容と伸長がみられたかを報告する。アンケート調査の結果、リフレクションによる自己評価の変化の度合と叙述内容、課題や試験等の成績評価物、取り組みの観察記録などを整理して考察したところ、学生の思考力、表現力等において向上が認められ、これらの学習活動が自律的学習の促進に有効であるという成果が得られた。

地域と連携する英文多読活動—学生の動機づけの観点から— (11:30-12:00)

後藤隆昭 (静岡県立大学)

この研究は、大学英語教育の英文多読活動において、大学が地域と連携し地域住民を巻き込むことで学生の多読活動が動機づけの観点からどう変化するのか先行研究を通して明らかにする。西澤他(2011)も「多読に積極的な雰囲気を作り、学生の自律的な読書活動を引き出すには、地域の社会人との連携が有益である」と述べている。先行研究から3つの連携の形が明らかになった。第一は大学の研究者が大学で英文多読の公開講座を開くこと、第二は大学の研究者が地域図書館で英文多読講座を開くこと、第三は大学の研究者及び学生が地域図書館で英文多読相談会を開くことである。学生の動機づけの観点からは、公開講座による地域住民の活発な多読活動に接し刺激され、学生の貸出冊数が3.9倍に伸びた例、多読相談会で地域住民に助言した学生からは「多読の楽しみを再び思い出す良いきっかけとなった」「負けないように多読を続けていこうと思った」「真剣に多読に取り組むようになった」などの報告が確認できた。以上から、大学が地域連携により地域住民を英文多読活動に巻き込むことは、学生への良い動機づけとなり、地域全体における英語力向上にも貢献できると考えられる

<特別講演> L804

「大学入試と英語民間試験について:課題が生み出すもの」

鳥飼玖美子(立教大学)

大学入試改革を目指し文部科学省は現行のセンター入試を廃止し、2020年に新たな大学入学共通テストを導入予定である。英語は各種の民間試験を活用することになった。英語の「4技能」を測るためというのが理由である。「読むこと、聞くこと」なら現在のセンター入試で実施しているし「書くこと」を入れるのは可能であろうが、「話すこと」の試験は新大学入学共通テストでは実施が難しい、だから民間試験の活用が不可避だとされた。

しかし、公平性が担保できず、高校の英語授業が民間試験対策に追われるなど、多くを犠牲にしてまで「話す力」を入試で測定しなければならない合理的な理由はない。

本講演では、民間試験がなぜ大学入試には適していないか、目的が違うことを説明した上で、民間試験を導入した場合に起こり得る諸課題と、それが生み出す事態について考察する。

講師紹介

鳥飼玖美子(とりかい くみこ)

立教大学名誉教授、昭和女子大学客員教授。NHK「ニュースで英会話」監修・テレビ講師(2009-2018.3)、2018年4月よりNHK「世界へ発信 SNS 英語術」テレビ講師、ウェブ「ニュースで英語術」監修。立教大学教授(1997.4-2011.3)、立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科初代委員長(2002.4-2011.3)、立教大学特任教授(2011.4-2014.3)、東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻客員教授(2007.4-2009.3)、国立国語研究所客員教授(2013.4-2016.3)。

文科省ユネスコ国内委員会、中央教育審議会留学部会、大学設置審議会、国土交通省観光政策審議会等の委員、日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー会長(2002-2008)、日本通訳翻訳学会会長(2004～2010)、AFS 日本協会理事(2001-2007)、AFS International Educational Council member (2010 -2015)等を経て、現在、内閣府政府広報アドバイザー、日本学術会議連携会員、(公益財団法人)中央教育研究所理事、(財団法人)日本開発構想研究所理事、国際文化学会常任理事、上智大学ソフィア会副会長。

学歴: 東洋英和女学院高等部在学中に AFS 生として米国ニュージャージー州に留学。上智大学外国語学部イスパニア語学科卒業。コロンビア大学大学院修士課程修了(MA in TESOL)、サウサンプトン大学大学院人文学研究科博士課程修了 (Ph.D.)

職歴: 国際会議やテレビにおける同時通訳者を経て大学教員。ラジオ・テレビ英語講師

専門分野: 言語コミュニケーション論、英語教育論、通訳翻訳学

近著

『英語教育の危機』(ちくま新書、2018)、『話すための英語力』(講談社現代新書、2017)『本物の英語力』(講談社現代新書、2016)、『英語教育論争から考える』(みすず書房、2014)、『一貫連携英語教育をどう構築するか: 道具としての英語観を超えて』(編著、東信堂、2014)、『戦後史の中の英語と私』(みすず書房、2013)、「グローバルバリエーションの中の英語教育—国際共通語としての英語をどう考えるか」『シリーズ大学 第1巻 グローバリゼーション、社会変動と大学』(岩波書店、2013, p138-167)、『よくわかる翻訳通訳学』(著者代表、ミネルヴァ書房、2013)、『異文化コミュニケーション学への招待』(編者代表、みすず書房、2011)、『国際共通語としての英語』(講談社現代新書、2011)、『「英語公用語」は何か問題か』(角川書店、2010)、*Voices of the Invisible Presence*. 2009. John Benjamins、『歴史をかえた誤訳』(新潮文庫、1998/2004)他。

<シンポジウム> L804

大学英語入試で何を測るべきか

第一部

I. 大学入試改革に伴う英検協会の取り組み

塩崎修建(公益財団法人 日本英語検定協会)

大学入試における英語 4 技能測定の必要性は長らく日本の英語教育における課題であった。英検協会は、Test of English for Academic Purposes (TEAP)を上智大と共同開発し、その信頼性・妥当性・波及効果は一定の評価を得ている。しかしながら、大学入試英語成績提供システムの運用開始を約 2 年後に控え、ステークホルダーの種類と数が増える事となり、とかく民間テストにおける「実用性」に注目が集まっている現状がある。その流れの中で、特に実用面で 50 年以上日本における英語力測定をリードしてきた実用英語技能検定(英検)に対する社会からの期待と注文が集まり、結果近年英検に対する様々な改善が加えられた。本発表では、その取り組みと今後の課題を紹介する。

講師紹介

塩崎修建(しおざき しゅうけん)

公益財団法人日本英語検定協会 教育事業部長。IELTS・TEAP の事業責任者、及び国内外における実用英語技能検定の大学入試対応統括。2014 年度より、文部科学省「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」委員。

II. 大学英語入試改革の論点:4 技能測定の意義と課題

法月健(静岡産業大学)

2017 年 7 月、文部科学省は「高大接続改革の実施方針等の策定について」の一環として、大学入学者選抜改革の方針を発表した。これにより、英語テストでは、2020 年度より「大学入学共通テスト」の枠組みにおいて、大学入試センター(センター)が作問する 2 技能「共通テスト」に加えて、センターが認定する民間実施の 4 技能「資格・検定試験」(認定試験)が活用され、2024 年度以降は、認定試験のみが上記の枠組みで実施される計画が明確化した。2018 年 3 月、センターは 7 団体 23 試験を、入学選抜に適する試験として認定した。民間試験による 4 技能測定の意義・問題点は何か、大学英語入試改革の検討すべき課題について議論する。

講師紹介

法月健(のりつき けん)

静岡産業大学情報学部教授。主な研究テーマは、言語テスト・評価・測定。発表に関連する近年の論文等に、Exploring item-examinee response characteristics in search of diagnostic functions of TOEIC® tests for university students in Japan (共著)、英語力の検定(単著)、Test specifications (単著)、Mixture Rasch Model による英語能力の測定(共著(近刊予定))等がある。2011 年度より日本英語検定協会・英語教育センターの委託研究(大友賢二研究代表)に参加。2011 年度日本言語テスト学会最優秀論文賞受賞。

大会会場 マップ

会場アクセス

愛知大学名古屋校舎



講義棟		厚生棟	
11F	教室		学生サークル室
10F	教室		学生サークル室
9F	教室		学生サークル室
8F	教室		学生サークル室
7F	教室		スタジオ・武道場・多目的競技室・和室
6F	教室・教職課程センター室		アリーナ(体育館)・フィットネスルーム
5F	教室	連絡ブリッジ	事務室
4F	研究室		メディアゾーン・教室・事務室
3F	研究室		図書館・生涯ビジネスセンター 五箇中産学研センター (ICCS)・研究所・学会
2F	教室	連絡デッキ	図書館
1F	フードコート・店舗	キャンパスモジュール	キャンパスレストラン・図書館
B1	地域冷暖房プラント・駐車場(身体障害者用)		

名古屋キャンパスフロアガイド

- ・名古屋駅から徒歩約 10 分
- ・あおなみ線ささしまライブ駅下車すぐ
- ・近鉄米野駅から徒歩約 5 分
- ・名鉄バス「愛知大学前」下車徒歩 2 分

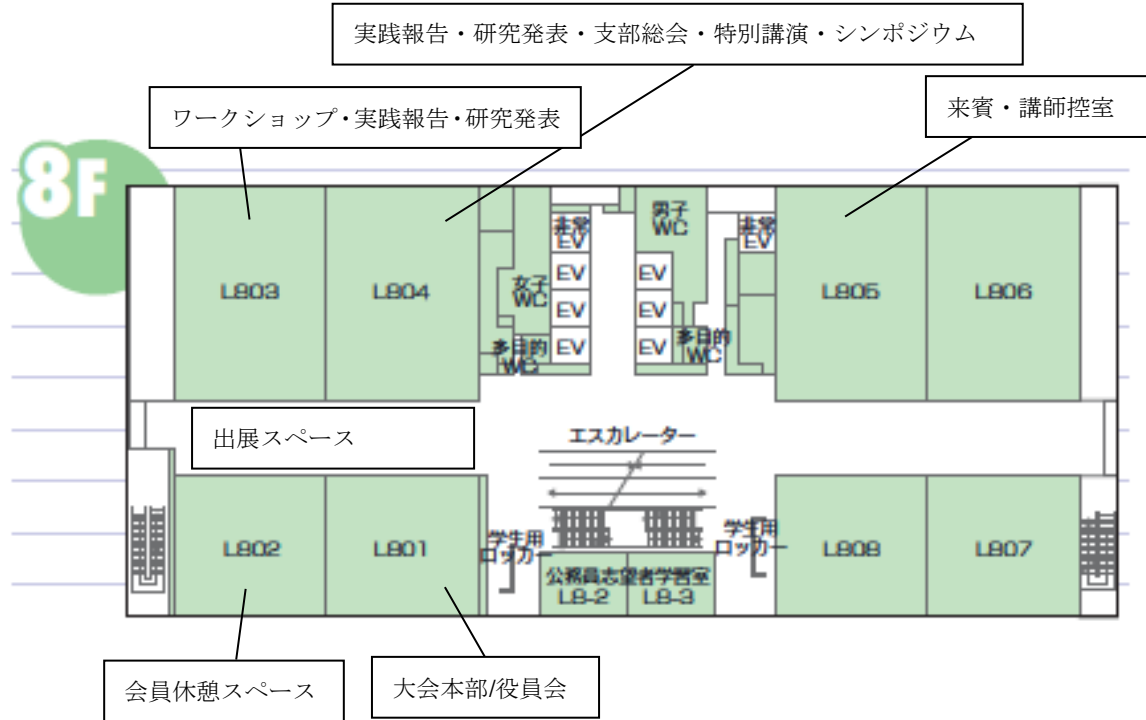
愛知大学

〒453-8777 名古屋市中村区平池町 4-60-6

TEL: 052-564-6111(代)

<http://www2.aichi-u.ac.jp/profile/campus/nagoya>

講義棟



懇親会のご案内

懇親会は JICA 中部なごや地球ひろば 1F、カフェ・クロスロードで行われます。事前予約制です(会費 一般 5,000 円, 学生 4,000 円)。多くの方々のご参加をお待ちしています。予約は JACET 中部支部のホームページ(<http://www.jacet-chubu.org/index.html>) にアクセスしていただき「支部大会」ページにある「懇親会申込」のリンク先でお申し込み下さい(予約締切り 6 月 8 日(金))。



Google Map

- **事務局より**

- * 非会員の参加者は資料代として一人につき 1,000 円の負担をお願いします(なお学生の方は学生証の提示で無料とします)。
- * 出版社の展示は講義棟 8Fで行います。
- * 発表者の方は自身の PC をお持ちください。VGA ケーブル、HDMI ケーブル、音声ケーブルなどは利用可能です。Mac を使用される場合は VGA/HDMI アダプタをお持ちください。
- * レジューメは各自 30 部程度ご用意ください。
- * 当日、中部支部役員会を 12 時 20 分から L801 で開催します。役員はご参集ください。
- * キャンパス内は禁煙です。
- * 大会についてのご質問は、中部支部事務局(下記)までメールでお尋ね下さい。

JACET 中部支部紀要編集委員会からのお知らせ

『JACET 中部支部紀要』第 16 号 投稿原稿募集
締切り:2018 年 9 月 10 日(必着)
投稿方法等の詳細については紀要の投稿規程およびホームページでご確認下さい。

問い合わせ先: JACET 中部支部事務局

一般社団法人大学英語教育学会(JACET)中部支部事務局

〒461-8534 名古屋市東区矢田南 4-102-9

名城大学外国語学部 藤原康弘研究室内

E-mail: fujiwara@meijo-u.ac.jp